

令和2年度展覧会

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会やギャラリートーク等の対面型の関連事業に代わり、担当学芸員による展示解説や作家による解説や対談、展示風景をオンラインコンテンツで配信し、新たな鑑賞機会の創出を行う。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万6千点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

(1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定し収蔵品を紹介する展覧会を開催している。今年度は「TOPコレクション 琉球弧の写真」と題し、当館コレクションの中から沖縄を代表する7名の写真家により多種多様な写真表現を紹介し、同名の図録を出版した。

(2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

2021年の生誕100年を記念し、石元泰博の全貌をつまびらかにする展覧会「生誕100年 石元泰博写真展」を東京都写真美術館、東京オペラシティアートギャラリー、高知県立美術館の共同で開催した。当館では「生命体としての都市」をテーマに石元独自の都市像を紹介した。

また、日本における写真文化を紹介するため、初期写真に焦点を当てた展覧会を開催している。「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」では、幕末明治の写真文化に着目し、関東地方の豊かな作品群や作家の誕生を、歴史や地域の特徴を際立たせ、同名の図録を出版した。

(3) 重点収集作家個展

第一期重点収集作家であり、スナップショットの名手として知られる森山大道の個展「森山大道の東京 ongoing」を開催した。今なお疾走し続ける森山がレンズを通して捉え続けてきた街・東京をカラーとモノクロの最新作を中心に紹介した。同名の写真集を一般書籍として出版した。

白川義員の個展を2期に分けて開催した。第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、崇高で美しい日本の自然を紹介、第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、60年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケ

ール感で再現した。

(4) 旬のミドルキャリア作家個展

国内外で活躍著しい、ミドルキャリア作家の個展。今年度はセルフポートレイトの手法を軸に自ら「シャッターを押すことのない写真家」として、一貫して自らの姿や顔を表現の手段に制作を行ってきた澤田知子を取りあげ、「澤田知子 狐の嫁いり」を開催。同名の図録を一般書籍として青幻舎から刊行した。

(5) 映像展

90年代からインターネットを基軸にメディアアートの領域を拡張してきたエキソニモの個展。本展では、「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」と題し、24年間に及ぶ多彩な活動を初期のインターネットアートから本展初公開の新作を含む近年の大型インスタレーション作品で構成した。また、実会場とオンライン会場同時展開が話題を呼んだ。同名の公式ガイドブックを出版した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

(1) 重点収集作家個展

第三期重点収集作家・瀬戸正人の個展「瀬戸正人 記憶の地図」を開催。タイと日本を往還しながら、半世紀以上にわたりアジア各地の人々の暮らしや表情、風土や社会に目を向けてきた瀬戸正人の各時代の代表作を紹介した。同名の写真集を日本カメラ社から一般書籍として出版した。

(2) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第17回となる本展は「象徴としての光」と「いまここを超えていく力」をテーマに、「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」と題し、写真・映像をメディアとする5組6名の新進作家たちを紹介し、同名の図録を出版した。

(3) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

1990年代に入り、ファッション写真という枠組みを超えて、人々に訴えかけるイメージを作り出す写真家や、インディペンデントなスタンスで情報を発信する作品やファッション誌が登場し、多くの人々の考え方やライフスタイルにも影響を与えてきた。「写真とファッション」展は、それらの活動に注目し、国内外で活躍する6組のアーティストたちの作品を通じて1990年代以降の写真とファッションの関係性をさぐり、同名の図録を出版した。

(4) 恵比寿映像祭

「Tokyo Tokyo Festival」の基幹事業である恵比寿映像祭。第13回となる今回は、「映像の気持ち」を総合テーマに、近隣施設なども会場に、地域と連携しながら、展示、上映、オンラインによるシンポジウム等、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

森山大道の東京 ongoing

Moriyama Daido's Tokyo: ongoing

期間：令和2年6月2日（火）～9月22日（火・祝）98日間
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／東京新聞
協力：写真弘社

スナップショットの名手として知られる、日本を代表する写真家・森山大道による東京をテーマにした個展。1960年代に写真家として活動を開始、以来、世界各国の美術館での大規模展、数々の国際的写真賞の受賞など、デビューから56年を経た現在もお世界の第一線で活躍し続けている。

東京オリンピックの開催された1964年より写真家として活動を始めた森山は、一貫して東京という都市のさまざまな様相をカメラでとらえつづけ、現在も継続中である。本展では、「ongoing=進行中、進化し続ける」をテーマに、今なお疾走し続ける森山大道がとらえた東京の作品を紹介した。

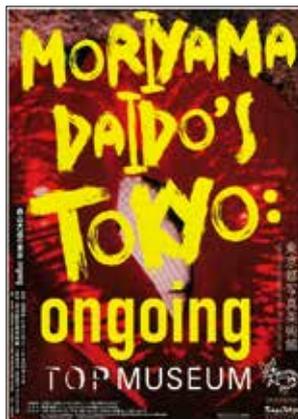
出品作品は、2017年以降に撮影されたカラーとモノクロのプリント201点、長さ12メートルのシルクスクリーン作品《Lips》をはじめとする過去作品を新たにシルクスクリーンで制作した作品8点、液晶モニターを用いた〈Tighits〉シリーズ5点、当館収蔵作品《三沢の犬》のほか、森山のライフワーク的個人写真誌『記録』の2019年末から会期中に発行となった最新号までの3号分のプリントを展示した。

出品点数：163点
入場者数：26,187人
企画：武内厚子

展覧会図録

『森山大道の東京 ongoing』

執筆者：森山大道、大竹昭子、甲斐義明
編集：神林豊、町口覚
発行：一般財団法人 森山大道写真財団



エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク

期間：令和2年8月18日（火）～10月11日（日）48日間
会場：地下1階展示室、2Fロビー、インターネット会場

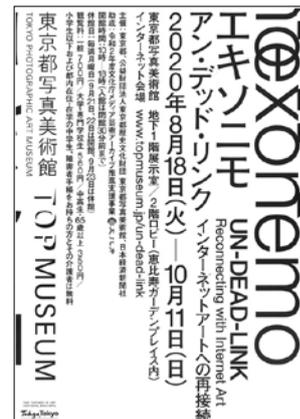
主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／日本経済新聞社
助成：令和2年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業

インターネットが一般に普及し始めた1990年代から、いち早くインターネットそのものを素材として扱い、ユーモアのある切り口と新しい視点を備えた作品でインターネットアート、メディアアートを軸足に、アートの領域を拡張してきたエキソニモ。エキソニモは、現在、ニューヨークを拠点として活動する千房けん輔と赤岩やえによる日本のアート・ユニットで、デジタルとアナログ、ネットワーク世界と実世界を柔軟に横断しながら、実験的なプロジェクトを数多く手がけてきた。本展では、24年間に及ぶその多彩な活動を、初期のインターネットアートから本展で初公開される新作《UN-DEAD-LINK 2020》を含む近年の大型インスタレーションまでの作品群によって構成し、インターネット上の会場と美術館の展覧会会場を連動させ、エキソニモの全活動の軌跡に迫った。

出品点数：20点（うち、一式の組作品（HEAVY BODY PAINT 3点）
入場者数：11,129人
企画：田坂博子

展覧会公式ガイドブック

『エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク [インターネットアートへの再接続]』
執筆者：エキソニモ（千房けん輔、赤岩やえ）、田坂博子
編集・発行：東京都写真美術館



TOPコレクション 琉球弧の写真

TOP Collection: Photography in the Ryukyu Islands

期間：令和2年9月29日（火）～11月23日（月・祝）49日間

会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団

沖縄を代表する7名の写真家（山田實、比嘉康雄、平良孝七、伊志嶺隆、平敷兼七、比嘉豊光、石川真生）の多種多様な写真表現を紹介した展覧会。出品作品の多くは1960年代から70年代の沖縄で撮影された。

市井の人々の暮らしや、大きなうねりとなった復帰運動、古くから各地に伝わる祭祀などを写した作品は、それぞれの写真家にとって、キャリア初期の代表作となっている。沖縄に暮らし、沖縄にレンズを向けた7名の写真家の作品には、沖縄のみならず、琉球弧（奄美群島から八重山列島にかけて弧状に連なる島々）全体を見据えたまなざしがあり、様々な角度から、この土地固有の豊かさと同時に、沖縄が直面する困難を写し出している。

これまで沖縄県外の公立美術館で紹介されることが少なかった、沖縄を代表する写真家の作品を網羅的に紹介する初の展覧会。

出品作家：山田實、比嘉康雄、平良孝七、伊志嶺隆、平敷兼七、比嘉豊光、石川真生

出品点数：206点

入場者数：9,984人

企画：伊藤貴弘、石田哲朗

展覧会図録

『TOPコレクション 琉球弧の写真』

執筆者：伊藤貴弘

編集・発行：東京都写真美術館



生誕100年 石元泰博写真展

生命体としての都市

Ishimoto Yasuhiro Centennial

The city brought to life

期間：令和2年9月29日（火）～11月23日（月・祝）49日間

会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網

共同企画：高知県立美術館／東京オペラシティアートギャラリー

モダンデザインの思想をシカゴで学び、その厳格な造形意識から国際的な評価を得てきた石元泰博（1921—2012）。2021年の石元泰博生誕100年を祝い、高知県立美術館、東京オペラシティアートギャラリー、東京都写真美術館の共同企画で展覧会を開催し、石元泰博の多彩な仕事を過去最大のスケールでつまびらかにした。

先陣を切る東京都写真美術館ではミッドキャリアから晩年の作品を「生命体としての都市」という視点からひもといた。街と生きる人々へ視線を向け、独自の都市像を世に問うた「シカゴ、シカゴ」や「東京」。物質や空間のミクロな断片を有機的に積み重ね、昇華させた「刻」。往来する人々を切り撮った「シブヤ、シブヤ」。石元のこれらの挑戦を支え続けた「多重露光」。これらの多角的な仕事を通して、石元は「生命体としての都市」を写真表現として作り上げてきた。

なお、東京オペラシティアートギャラリーでは、被写体に着目した「伝統と近代」を開催。その後、高知県立美術館にて石元泰博の全貌を振り返る大回顧展を開催した。

出品作家：石元泰博

出品点数：166点

入場者数：12,747人

企画：藤村里美（公益財団法人 東京都歴史文化財団学芸員、前・東京都写真美術館学芸員）、福士理（東京オペラシティアートギャラリー）、天野圭吾（高知県立美術館）、朝倉芽生（高知県立美術館）、山田裕理

展覧会図録

『石元泰博 生誕100年』

執筆者：磯崎新、森山明子（武蔵野美術大学）、藤村里美（公益財団法人東京都歴史文化財団）、福士理（東京オペラシティアートギャラリー）、天野圭吾（高知県立美術館）、朝倉芽生（高知県立美術館）

編集：内田伸一、蟹沢格（株式会社平凡社）、藤村里美（公益財団法人東京都歴史文化財団）、山田裕理（東京都写真美術館）、三井圭司（東京都写真美術館）、遠藤みゆき（東京都写真美術館）、福士理（東京オペラシティアートギャラリー）、瀧上華（東京オペラシティアートギャラリー）、天野圭吾（高知県立美術館）、朝倉芽生（高知県立美術館）

発行：株式会社平凡社



日本初期写真史 関東編

幕末明治を撮る

History of Early Japanese Photography: Kantō Region

Images of Japan, 1853-1912

期間：令和2年12月1日（火）～令和3年1月24日（日）44日間
（令和2年3月3日～5月24日実施予定のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止し、再展示）
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網

毎年、東京都写真美術館では、写真の起源にフォーカスして、美術的のみならず、歴史的にも意義のある展覧会を行っている。
今回の「日本初期写真史 関東編」では、高橋則英氏（日本大学芸術学部 写真学科教授）の監修のもと、三部構成で幕末明治期における関東地方の写真文化を紐解いた。一章では歴史を概観し、欧州における写真発祥から日本への輸入や普及するまでの歴史と写真技術を俯瞰した。二章では制作者に焦点をあて、関東地方を訪れたり、この地を基盤として活動した写真家や写真技術者たちの作品を展覧するとともに、一都六県それぞれで開業した初期の写真家たちも紹介。最終章はペリー来航時の肖像写真から建設中の東京駅まで、バラエティに富んだ幕末明治の写真群が一堂に会し、その積層する写真文化を鳥瞰する貴重な機会となった。

出品作家：ジャン＝バプテスト・ルイ・グロ、テオドル・モリセ、ルイ＝オーギュスト・ビゾン、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、トマス・ウィリアムス、G. J. ブルダン、ロジャー・フェントン、アンドレ＝アドルフ＝ウジェーヌ・デイスデリ、バレル写真館、ハーベイ・ロバート・マークス、エリファレット・ブラウン・ジュニア、フランシス・ホークス、川本幸民、ウィリアム・ナソー・ジョスリン、オーリン・フリーマン、鶴飼玉川、深沢要橋、チャールズ・ドフォレスト・フレデリクス、アンドニオ・ベアト、ナダール、江崎礼二、小川一真、下岡蓮杖、フェリーチェ・ベアト、堀内信重、日下部金兵衛、ライムント・フォン・シュテルフリード、アドルフォ・ファルサーリ、チャールズ・ウィード、ミヒヤエル・モーザー、チャールズ・パーカー、松崎晋二、東京印刷局、江木松四郎、田中武、玉村康三郎、鈴木真一、江崎礼二、吉原秀雄、宇佐美竹城、片岡如松、横山松三郎、豊田尚一、レオン・ポエル、内田九一、清水東谷、宮内幸太郎

出品作品所蔵および管理機関：東京都写真美術館、日本大学芸術学部、川崎市市民ミュージアム、日本学士院、沼津市明治史料館、横井小楠記念館、明治大学図書館、横浜市市民ギャラリーあざみ野、小林泰人フォトグラフィック・コレクション、東洋大学総合文化研究科・教養学部駒場博物館、中村写真館、片岡写真館、行田市郷土歴史博物館、千葉県文書館、横須賀市自然・人文博物館、明治学院歴史資料館

出品点数：190点
入場者数：8,707人
企画：三井圭司

展覧会図録

『日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る』

執筆：高橋則英（日本大学芸術学部写真学科教授）、井桜直美（日本カメラ博物館研究員）、三井圭司

編集・発行：東京都写真美術館



白川義員写真展

永遠の日本 / 天地創造

Shirakawa Yoshikazu exhibition ;

Eternal Japan/The Earth

期間：令和3年2月27日（土）～5月9日（日）28日間（令和3年3月31日までの開館日数）
（令和2年3月3日～5月24日実施予定のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止し、再展示）
会場：3階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協力：凸版印刷株式会社／株式会社小学館

世界的写真家で、山岳写真家としても輝かしい実績を残す白川義員は、「地球再発見による人間性回復へ」を創作活動の基本理念として、地球がもつ美や神秘、荘厳さを追求し続け、1969年出版の『アルプス』以来、『ヒマラヤ』『アメリカ大陸』『聖書の世界』『中国大陸』『神々の原風景』『仏教伝来』『南極大陸』『世界百名山』『世界百名瀑』まで、10のシリーズを発表してきた。東京都写真美術館では白川義員の集大成となる2つのシリーズを二期構成で紹介した。

第一期、シリーズ第11作目となる「永遠の日本」は、日本人の誇りと魂を復興する一助になりたいという作家自身の願いが込められた、崇高で美しい日本の自然を紹介した。

第二期、シリーズ第12作目となる最新作「天地創造」は、アメリカ西部の砂漠で、入域が1日わずか20人に限定されているザ・ウェーブや、中国の湖南省・張家界市に位置し、「仙境」と呼ぶにふさわしい武陵源など、いずれも近年発見された地域や、「奇跡の絶景」といわれ最近話題の南米ウユニ塩湖などを中心に構成した。白川が「アルプス」発表以降、50年以上にわたり撮り続けてきた作品群の中から「天地創造」のイメージに合致する作品を一挙放出し、最新のデジタル技術とかつてないスケール感で再現した。

出品作家：白川義員
出品点数：326点（「永遠の日本」130点、「天地創造」196点）
入場者数：5,794人（令和3年3月31日現在）
企画：関次和子

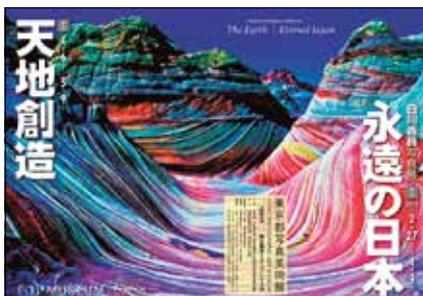
展覧会図録

『永遠の日本』

『天地創造』

執筆者：白川義員

編集・発行：永遠の日本撮影プロジェクト事務局、天地創造撮影プロジェクト事務局



澤田知子 狐の嫁いり

Tomoko Sawada: To Be Bewitched by a Fox

期間：令和3年3月2日（火）～5月9日（日）26日間（令和3年3月31日までの開館日数）
会場：2階展示室

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
協力：株式会社堀内カラー
助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

2000年にセルフポートレート作品《ID400》でキヤノン写真新世紀2000特別賞を受賞、2004年には木村伊兵衛写真賞を受賞し、現在も国内外で作品の発表を続け、国際的に高い評価を受けるアーティスト、澤田知子の国内初の大規模個展。澤田はセルフポートレートとタイポロジーの手法を軸に「シャッターを押すことのない写真家」として、自らの姿や顔を被写体として用い、制作を行ってきた。「内面」と「外見」の関係に関心を持ちながら、アイデンティティの在り方までもを探求し、制作を続ける、澤田の旺盛な制作活動を概観する本展では、新作《Reflection》を初公開するとともに、デビュー作《ID400》の世界に一つしか存在しない、作家が制作時に自動証明写真機で撮影したオリジナルを収蔵・展示した。

出品作家：澤田知子
出品点数：13点
入場者数：3,034人（令和3年3月31日現在）
企画：遠藤みゆき

展覧会図録

『澤田知子 狐の嫁いり』

執筆者：結城円、Marco Bohr、遠藤みゆき

編集：新庄清二

発行：青幻舎



自主企画展

写真とファッション

Photography and Fashion Since the 1990s

期間：令和2年6月2日（火）～7月19日（日）42日間
（令和2年3月3日～5月10日実施予定のところ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止後、再開）
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網／東京都写真美術館支援委員会

「写真とファッション」をテーマとし、1990年代以降の写真とファッションの関係性を探る展覧会。これまで写真は衣服が持つ魅力を伝えるという重要な役割を担うとともに、写真によって作り出されるイメージは、ときには衣服そのものよりも人々をひきつけ、時代を象徴するようなイメージとなってきた。監修に、長年にわたり文化誌『花椿』の編集者としてファッションやアートの世界を見つめてきた林央子氏を迎え、国内外のアーティストによる作品と、時代のターニングポイントとなった稀少なファッション誌の展示など、様々な角度から写真とファッションの関係性を探った。

出品作家：高橋恭司、アンダース・エドストローム、エレン・フライス×前田征紀、PUGMENT、ホンマタカシ
出品点数：101点
入場者数：12,022人
企画：伊藤貴弘

展覧会図録

『写真とファッション』

執筆者：林央子（本展監修者）、伊藤貴弘
編集・発行：東京都写真美術館

あしたのひかり

日本の新進作家 vol.17

Twilight Daylight

Contemporary Japanese Photography vol.17

期間：令和2年7月28日（火）～9月22日（火・祝）50日間
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
助成：芸術文化振興基金
協賛：東京都写真美術館支援委員会

2002年より開催している「日本の新進作家」展の第17回目。「象徴としての光」と「いまここを超えていく力」をテーマに、写真・映像をメディアとする5作家6名を紹介した。今回は、出品作家それぞれが展示空間を意識して本展のためのインスタレーション的な展示を行った。また、オンライン・イベントとして5作家のアーティスト・トークを動画配信する等、ニューノーマルな関連イベントを試みる機会でもあった。展示内容としても、コロナの時代に言及する新作を展示の一部に加えることによって、現代社会と人との関わりを今日改めて問い直すものとなった。

出品作家：岩根愛、赤鹿麻耶、菱田雄介、原久路&林ナツミ、鈴木麻弓
出品点数：142点
入場者数：11,287人
企画：石田哲朗

展覧会図録

『あしたのひかり 日本の新進作家vol.17』

執筆者：岩根愛、赤鹿麻耶、菱田雄介、原久路&林ナツミ、鈴木麻弓、石田哲朗
編集・発行：東京都写真美術館



瀬戸正人 記憶の地図

Seto Masato: Maps of Memory

期間：令和2年12月1日（火）～令和3年1月24日（日）44日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

特別協賛：東京都写真美術館支援会員

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網

協力：キャノンマーケティングジャパン／イルフォードジャパン

瀬戸正人 (1953-) はタイ国ウドンタニ市に、日本人の父とベトナム人の母の元に生まれ、1961年に父の故郷である福島県に移り住んだ。東京写真専門学校（現・東京ビジュアルアーツ）卒業後、1981年よりフリーランスの写真家として活動を始め、1996年には、特異な視点で都会に生きる人々を捉えた〈Silent Mode〉、〈Living Room, Tokyo 1989-1994〉で第21回木村伊兵衛写真賞を受賞、現代日本を代表する写真家の一人として高い評価を得ている。

タイと日本を往還しながら、半世紀以上にわたりアジア各地の人々の暮らしや表情、風土や自然、また社会にレンズを向けてきた瀬戸は、「写真は『記録』であると同時に『記憶』でもある」と語る。展覧会では、最新作〈Silent Mode2020〉を皮切りに、デビュー作〈バンコク、ハノイ1982-1987〉までさかのぼる各時代の代表作によって、瀬戸が見たアジアの表情を紹介した。

出品作家：瀬戸正人

出品点数：105点

入場者数：6,855人

企画：関次和子

展覧会図録

『記憶の地図』

著者：瀬戸正人

執筆者：伊藤俊治、関次和子

編集・発行：日本カメラ社

巡回先：福島県立美術館

会期：令和3年12月4日（土）～令和4年1月30日（日）



第13回恵比寿映像祭「映像の気持ち」

Yebisu International Festival for Art & Alternative

Visions 2021:

E-MOTION GRAPHICS

期間：令和3年2月5日（金）～2月21日（日）15日間

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
アートカウンシル東京／日本経済新聞社
共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
後援：米国大使館／駐日韓国大使館 韓国文化院／TBS/J-WAVE
81.3FM
協賛：サッポロビール株式会社
協力：avatarin株式会社／全日本空輸株式会社

第13回恵比寿映像祭は「映像の気持ち」を総合テーマに、見る人の気持ちを動かす映像の力に着目し、「動画」であるということ、に焦点をあてることで、その豊かさを提示しながら、映像とともに生きる現在を見つめなおす機会をつくります。今回は28の国と地域より109組の作家およびゲストが出品・参加し、東京都写真美術館全フロア、日仏会館、地域連携各所などの複合会場での、展示、上映のほか、オンライン配信でのギャラリートーク、トーク・セッション、シンポジウムなど多彩なプログラムを展開した。

展示（会場：東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室およびロビー）

ベトラ・コートライト／リュミエール兄弟（オーギュスト・リュミエール&ルイ・リュミエール）／エミール・コール／松本力／マックス・フライシャー／シヤマザキ／チャン・ヨンヘ重工業／スタン・ヴァンダービーク／赤松正行+ARARTプロジェクト／トニー・アウスラー／筑波大学ヒューマンエージェンティインタラクティブ研究室（後藤豪臣、大澤博隆）／渡辺豪／ジェームズ・ホイットニー／ジョン・ホイットニー／木本圭子／藤堂高行／チヨ・ヨンガク／KEIKEN／カワイオカムラ

ラウンジトーク（会場：東京都写真美術館 1階ホール）＊無観客オンライン配信
シヤマザキ／渡辺豪／赤松正行、向井丈視（ARARTプロジェクト）／松本力、VOQ（本多裕史）
／カワイオカムラ／[地域連携プログラム：アートフロントギャラリー 旅に出よう！ニューヨークー東京ーサンパウロ]
（大岩オスカル／小野リサ／前田礼 [司会]）

展示（会場：日仏会館 ギャラリー）

渡辺豪

上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

①カワイオカムラ特集—最新作《ムード・ホール》と短編集2004-2019（ゲスト：カワイオカムラ） ②湯浅政明《マインド・ゲーム》[35ミリフィルム上映] ③ヴァンセント・ボーイ・カース《ドラマ・ガール》—現実とフィクションの間 ④揺動PROJECTS: Retouch Me Not [日本現代作家特集] ⑤オスカー・フィッシング、初期モーショングラフィクスとヴィジュアル・ミュージック ⑥新千歳空港国際アニメーション映画祭 短編集
①—アニメーションの自然 nature を探る（ゲスト：土居伸彰） ⑦新千歳空港国際アニメーション映画祭 短編集②—感覚を研ぎ澄ますアニメーション（ゲスト：土居伸彰） ⑧感情ゆさぶられる（E-MOTIONAL）アニメーション— DigiCon6 ASIA（ゲスト：山田亜樹、オダアマネ、児玉徹郎） ⑨モノグラフ2020—アジア・エッセイ映画特集①—モチーフ ⑩モノグラフ2020—アジア・エッセイ映画特集②—モーメンツ

シンポジウム（会場：東京都写真美術館 1階ホール）＊無観客オンライ

ン配信

A. [恵比寿映像祭×NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]共同企画] 映像とともにあること—未来へのアーカイブ（パネリスト：近藤健一、島中実、指吸保子、岡村恵子、田坂博子）
B. [日仏会館共催企画] 映画と人—危機のなかの映画（パネリスト：諏訪敦彦、クレモン・ロジェ
司会／モデレーター：澤田直、田坂博子）

YEBIZO MEETS オンライン・トーク（会場：東京都写真美術館 1階ホール）＊無観客オンライン配信

①アナログ手法とデジタル技術を組み合わせたネオクラフトアニメーションから、新世代のアニメーションを考える。（講師：伊藤有香、見里朝希 司会：山田亜樹） ②アートと商業のあいだを行き交い、時代に捉われない独自の表現手法を模索するモーション・アニメーション、主宰者に聞く。アニメーション表現の現在を考える。（講師：細金卓矢、山田遼志、別所梢 司会：フィルムアート社） ③3DCGやARなどのデジタルテクノロジーを駆使し、リアルタイム映像合成によって表現される舞台。その制作過程に迫る。（講師：タグチヒトシ、真壁成尚） ④フェスティヴァル連携：コラボレーショントーク「それぞれのトランスフォーメーション」—Media Art in TOKYO：エリアを超えて、4つのメディアアートフェスティヴァルが連携。それぞれの「トランスフォーメーション」を軸に、フェスティヴァルの今と未来を考える。デジタルによって、何を容れさせられるか？（登壇者：谷川じゅんじ、サンソン・シルヴァン、藤谷菜未、久納鏡子、田坂博子）

YEBIZO MEETS 地域連携プログラム（会場：地域連携各所）

公益財団法人日仏会館／YEBISU GARDEN CINEMA／Rocky Shore／MA2 Gallery／MuCuL／NADiff a/p/a/r/t／MEM／AL（企画：TRAUMARIS）／NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]／アートフロントギャラリー

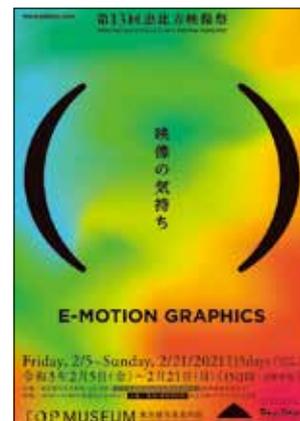
※本事業はTokyo Tokyo FESTIVALの一環として開催した

出品点数：計187点（展示作品102点／上映作品78点／トーク10点／シンポジウム2点）

入場者数：21,598人（うち、オンライン参加834人）

地域連携プログラム含むフェスティヴァル総数：27,816人（連携先参加人数6,218人＊オンライン含む）

企画：岡村恵子、田坂博子、多田かおり、坂元真理、柳生みゆき



写真新世紀展2020

New Cosmos of Photography 2020

期間：令和2年10月17日（土）～11月15日（日）26日間
会場：地下1階展示室

主催：キヤノン株式会社
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の新たな可能性に挑戦する新人写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展の応募人数は2,002名、優秀賞7名、佳作14名、前年度グランプリ受賞者1名。審査員：オノデラユキ（写真家）、榎木 野衣（美術評論家）、清水 穰（写真評論家）、瀧本 幹也（写真家）、野村 浩（美術家）ポール・グラハム（写真家）、安村 崇（写真家）[敬称略]。関連イベントとして10月30日（金）「グランプリ選出公開審査会・表彰式」（会場：1階ホール、事前予約制・定員90名）をはじめ、会期中に審査員によるトークショー、アーティスト・トークを開催した。

出展者数：22人
出品作品数：156点（動画26点を含む）
入場者数：6,125人



138億光年 宇宙の旅

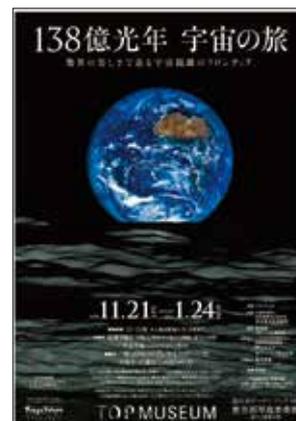
Space Odyssey of 13.8 billion light-years

期間：令和2年11月21日（土）～令和3年1月24日（日）52日間
会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
監修：渡部潤一（国立天文台 副台長）
特別協力：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台、富士フイルム株式会社
企画協力：岡本典明（サイエンスライター）
後援：目黒区

創立から60年余り、宇宙開発や天体観測に偉大な功績を残してきたNASA—アメリカ航空宇宙局。2020年は、ハッブル宇宙望遠鏡が打ち上げ30周年を迎え、その他にも火星探査機マーズ・リコネッサンス・オービターの打ち上げ15周年など、宇宙科学の記念すべき年となっている。本展では、NASAの画像を中心に、観測衛星や惑星探査機、宇宙望遠鏡等がとらえた美しく驚異的な天体写真を選びすぐって紹介したほか、太陽系から、銀河系内の星雲や星団、そしてさらにその先にある無数の銀河や銀河団など、多様な天体の驚異的な姿を大型の高品位銀塩写真プリントで紹介。また、すばる望遠鏡、アルマ望遠鏡など国立天文台関連の大型望遠鏡による観測成果の一部を展示した。サイエンスでありながらアートのごとく見る者を魅了する画像の数々、宇宙の謎や神秘を紐解く人間の英知や科学技術発展の素晴らしさを体感できる機会となった。会場入口にはアポロ計画最後の月面でのミッションの様子を掲出したフォトスポットを設置し、来場者が自由に撮影を楽しめるようにした。

出品点数：126点
入場者数：11,536人



日本写真家協会創立70周年記念展

日本の現代写真 1985-2015

JPS 70th Anniversary Exhibition

Contemporary Japanese Photography * 1985-2015

期間：令和3年3月20日（土）～4月25日（日）10日間（令和3年3月31日
までの開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会

2020年5月、公益社団法人日本写真家協会は創立70周年を迎え、その記念事業として写真展「日本の現代写真 1985-2015」を開催。本展は公益社団法人日本写真家協会が1968年に催したわが国の写真表現の歴史を綴った「写真100年」展や「日本現代写真史展」に続くものとして企画されたものである。

これまでの写真表現が主として銀塩フィルムや印画紙をベースに制作されてきたが、1990年以降デジタル技術の革新で、カメラからプリント技術のすべてがデジタル化され、表現にもさまざまな技法が生まれ斬新な表現が可能となったことで、表現にも変化が起っている。写真は時代を映す鏡ともいわれ、それぞれの時代の光と影が投影されている。

本展では1985年から2015年の技術がフィルムからデジタルに変革したこの30年間の写真表現が、どのような変革をもたらしたか、発展したかを検証しようと、監修：田沼武能と飯沢耕太郎、上野修、鳥原学、多田亜生、関次和子、野町和嘉らによって編纂した写真表現史展。

出品点数：152点

入場者数：1,582人（令和3年3月31日現在）

展覧会関連書籍

日本の現代写真 1985-2015

CONTEMPORARY JAPANESE PHOTOGRAPHY * 1985-2015

編集：公益社団法人日本写真家協会

発行：クレヴィス



スクールプログラム

東京都写真美術館では、児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や部活動、教職員研修等と連携したスクールプログラムを実施している。制作体験と作品鑑賞の両方を一度に体験できる当館のスクールプログラムでは、表現と鑑賞の両面から、写真・映像の仕組みと楽しさを体験的により深く理解することが可能である。

今年度はコロナ禍にともなって、展示室での対話鑑賞やスタジオでの大人数での制作が困難な状況となり、来館する学校団体も減少した。プログラムの実施数としては大きく減少したが、その一方で、学校側が来館するのでもなく、美術館が出前授業を行うのでもない、オンラインによる遠隔授業も新たに実施するようになった。

また年度後半においては、感染状況の一時改善にともなって通常の学校活動が再開されるようになり、当館にもスクールプログラムの依頼も戻りはじめ、来館した学校団体に対して、制限された内容ではあるが、スタジオでの対話鑑賞やワークシートを用いた展覧会見学を行うとともに、出前授業による制作体験や鑑賞プログラムを実施した。

実施回数：24回

参加人数：651人

鑑賞体験プログラム

A. 対話型作品鑑賞

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルのかたちと言葉を組み合わせるゲームを実施し、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後展示室での作品鑑賞を行う。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力を育成するきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



制作体験プログラム

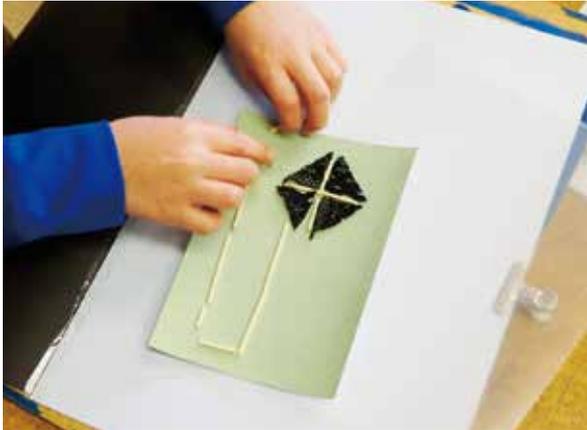
B. 手作りアニメーション体験—おどろき盤

おどろき盤（フェナキスティスコープ）とは、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、おどろき盤に絵を描いて、それを鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。また、どのようにしたら動いて見えるのかを観察し、自ら考える能動的学習、自身で描くことによってアニメーション表現を行う体験的理解、仲間と互いにおどろき盤を覗くことでのコミュニケーションを伴った学習という3つの学びを楽しみながら行うことができる。



C. 写真の制作体験—青写真

「暗室」という特別な施設を使用しなくても、写真の原点である「現像体験」ができるプログラム。深い青色を特徴とする「青写真(サイアノタイプ)」の写真方式によって、身の回りの様々な物体の影を、太陽の光で印画紙上に直接写し取る表現技法「フォトグラム」の制作を行う。使用する青写真印画紙は当館の自家製によるもので、事前にスタッフが作ったものを授業では用いた。



令和2年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	10月3日(土)	14:15-16:00	東京都立豊多摩高校	2-3年生	部活動	10	当館スタジオ、2、3階展示室	スライドによる対話型作品鑑賞、「石元泰博」展・「琉球弧の写真」展自由鑑賞
2	10月17日(土)	14:00-15:30	帝京科学大学 看護学科	1年生	美術と対話	7	当館スタジオ、2、3階展示室	対話型作品鑑賞のレクチャー、スライドによる対話型作品鑑賞、「石元泰博」展・「琉球弧の写真」展自由鑑賞
3	10月22日(木)	14:00-16:00	東洋女子高等学校	1年生	グローバル教育	12	当館スタジオ、2、3階展示室	スライドによる対話型作品鑑賞、「石元泰博」展・「琉球弧の写真」展自由鑑賞
4	10月29日(木)	8:45-10:20	東村山市南台小学校	4年生	図工	29	同校(オンライン授業)	おどろき盤
5	10月29日(木)	10:40-12:15	東村山市南台小学校	4年生	図工	29	同校(オンライン授業)	おどろき盤
6	11月12日(木)	13:40-15:15	東村山市南台小学校	5年生	図工	30	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞
7	11月13日(金)	10:40-12:15	東村山市南台小学校	5年生	図工	29	同校(出前授業)	スライドによる対話型作品鑑賞
8	11月17日(火)	10:00-11:40	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	62	当館スタジオ、2、3階展示室	「石元泰博」展・「琉球弧の写真」展自由鑑賞
9	11月18日(水)	14:00-15:00	東京都立国際高校	2年生	国際理解科目	22	当館スタジオ、2階展示室	「石元泰博」展概要解説、自由鑑賞
10	11月19日(木)	10:00-11:40	港区立白金の丘小学校	5年生	図工	65	当館スタジオ、2、3階展示室	「石元泰博」展・「琉球弧の写真」展自由鑑賞
11	12月2日(水)	15:00-16:30	東村山市立小学校図工研究会	図工教員	教員研修	24	オンライン研修会	おどろき盤
12	12月10日(木)	13:30-14:30	文化学園大学 デザイン・造形学科	3年生	美術館見学	39	当館スタジオ、2階展示室	「瀬戸正人」展展示解説・自由鑑賞
13	1月25日(月)	13:15-14:35	山梨県立わかば支援学校	高校生	図工	12	同校	おどろき盤(教材提供)
14	2月26日(金)	10:35-12:10	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	26	同校(出前授業)	おどろき盤
15	3月1日(月)	10:35-12:10	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	31	同校(出前授業)	青写真
16	3月1日(月)	13:15-14:50	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	20	同校(出前授業)	青写真
17	3月4日(木)	10:45-12:20	八王子市立松が谷小学校	6年生	図工	30	同校(出前授業)	おどろき盤
18	3月4日(木)	13:40-15:15	八王子市立松が谷小学校	6年生	図工	30	同校(出前授業)	おどろき盤
19	3月16日(火)	10:35-12:10	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	31	同校(出前授業)	青写真
20	3月16日(火)	13:15-14:50	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	19	同校(出前授業)	青写真
21	3月11日(木)	10:30-12:30	IFラボ	3-5年生	フリースクール	4	当館スタジオ	おどろき盤、スライドによる対話型作品鑑賞
22	3月18日(木)	10:45-12:20	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図工	32	同校(出前授業)	青写真
23	3月18日(木)	13:40-15:15	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図工	33	同校(出前授業)	青写真
24	3月19日(金)	10:45-12:20	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	25	同校(出前授業)	おどろき盤
合計						24回	651人	

パブリックプログラム事業は、体験的なプログラムによって、様々な世代、多様な関心のあり方に応じて、参加者の写真・映像への理解と学びを促進すること、生きる力やコミュニケーション力を高めるきっかけを創出することを目的としている。また加えて、あらゆる人が参加可能なプログラムを実施することで、様々な背景を持つ人々が美術館を楽しみ、学ぶ機会の提供を目指している。今年度はコロナ禍によって、オンラインでのプログラムや「おうちでワークショップ」のように、人が集まらずに活動することを主眼においた開催形態を試みた。

実施回数 16回

参加人数 309人

●映像ワークショップ「LEDの明滅で、アニメを作ろう」

「今のギャルは電子工作する時代」をスローガンに活動するユニット「ギャル電」のきょうこ氏を講師とする映像ワークショップ。マトリクスLEDの8×8個の光の明滅をプログラミングし、ドット絵によって文字や図像などをつくり、それらが入れ替わることで動いて見えるアニメーションを制作した。



●「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」(オンライン開催)

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、ことばを交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップ。見える人と見えない人の2人のナビゲーターとともに、見えていることや感じていることを言葉にして伝え合いながら作品を鑑賞した。今年度は「石元泰博」展、「瀬戸正人」展、「澤田知子」展をテーマにオンラインで開催した。



●「おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる」

(対面配布)

美術館で配布する「青写真体験セット」を来館者が持ち帰り、それぞれが自宅で作品制作を行ってもらうプログラム。青写真(サイアノタイプ)は他の写真技法と比べて比較的容易に印画できるため、太陽の光で様々な素材を写しとる制作に適している。自家製の青写真印画紙2枚入りの体験セットを用いて制作してもらった作品の画像を、希望者から美術館にメール送信してもらい、青写真作品

を集めた記録(スライドショー)を制作・インターネット上で公開した。



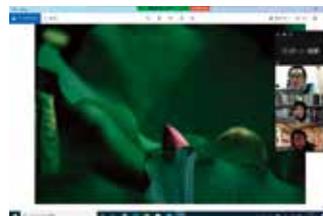
●「おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤」(対面配布) (ダウンロード版)

美術館で配布する「おどろき盤体験セット」を用いて、それぞれが自宅で作品制作を行うことのできるプログラム。「おどろき盤」は、19世紀に起源をもつ原始的なアニメーション装置。当館で主にスクールプログラムで用いるオリジナル「おどろき盤」4種類とパンフレットが同封された「体験セット」を対面配布およびダウンロード版として当館ホームページ上でのデータ配布を行い、それを用いて制作した作品の画像を希望者が美術館にメール送信し、作品を集めた動画(コマ撮りアニメーション)を制作、インターネット上で公開した。



●写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)

「コミュニケーションの方法としての写真」を考えるきっかけづくりとなるプログラム。若手ギャラリストと当館学芸員をナビゲーターとして、参加者の撮影した写真を見て、参加者によるプレゼンテーションを聞き、対話によって学びを深める内容。今年度はオンライン開催となった。



●「QRコード・ミッション 春休みTOP MUSEUM」

来館者がスマートフォンを手に、館内複数個所に掲示されたQRコードを手掛かりとして、web上に特設された動画コンテンツにアクセスし、ミッションをクリアする館内回遊型バーチャル・イベント。TOP MUSEUMを楽しむ、学ぶためヒントを来館者に紹介した。

令和2年度 パブリックプログラム実績

プログラム名	講師	開催日	参加人数	参加費	備考
1 映像ワークショップ「LEDの明滅で、アニメを作ろう」	ギャル電きょうこ(アーティスト)	令和2年10月31日(土)	3	2,000円	
2 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和2年11月21日(土)	7	無料	「石元泰博」展
3 おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる	当館スタッフ	令和2年12月17日(木)	47	無料	体験セット配布 ※実績は配布数
4 おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる	当館スタッフ	令和2年12月18日(金)	65	無料	体験セット配布 ※実績は配布数
5 おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる	当館スタッフ	令和2年12月19日(土)	90	無料	体験セット配布 ※実績は配布数
6 おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤(ダウンロード版)	当館スタッフ	令和2年12月21日(月)– 令和3年1月12日(火)	—	無料	インターネット上での体験セット配布 ※人数カウントなし
7 おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤	当館スタッフ	令和3年1月10日(日)	34	無料	体験セット配布 ※実績は配布数
8 おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤	当館スタッフ	令和3年1月11日(月・祝)	22	無料	体験セット配布 ※実績は配布数
9 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年1月16日(土)	6	無料	「瀬戸正人」展
10 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年1月24日(日)	8	無料	「瀬戸正人」展
11 写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)	河西香奈(KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、石田哲朗(当館学芸員)	令和3年2月19日(金)	3	無料	「瀬戸正人」展
12 写真のプレゼンテーションを学ぶ(オンライン開催)	河西香奈(KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、石田哲朗(当館学芸員)	令和3年3月12日(金)	3	無料	
13 [高校生・大学生対象] 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年3月21日(日)	7	無料	「澤田知子」展
14 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年3月27日(土)	9	無料	「澤田知子」展
15 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(オンライン開催)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ	令和3年3月28日(日)	5	無料	「澤田知子」展
16 QRコード・ミッション 春休みTOP MUSEUM	当館スタッフ	令和3年3月27日—4月11日(日)	—	無料	来館者自由参加 ※人数カウントなし
合計 16回 309人					

※「QRコード・ミッション」動画視聴回数37回(3/27~3/31)

教育普及事業
教材開発

対話型作品鑑賞の効果を高めるために、そのウォーミングアップとして実施している当館のオリジナル教材「色と形と言葉のゲーム」を、平成31年度に学校をはじめ多くの方々にも使っていただけるように製品化及び実用新案登録し、ミュージアムショップで販売した。

「色と形と言葉のゲーム」 価格4,150円(税抜)

内容物:

- ① 色と形のカード 12色、21種類
- ② 言葉のカード 80種類
- ③ あそびかたガイド 1冊



解説冊子「あそびかたガイド」

(photo Ryosuke Yamahiro)



色と形のカード



スクールプログラムでの活用の様子

スクールプログラムでの児童の感想

- ・形や言葉が同じでも人によっては感じ取り方が違うことがわかって、人それぞれなんだと思った。
- ・みんなで意見を出し合ったり、理由を言ったりすることで、「なるほど!」と思えたり、「今度はあの人みたいなのを見つけてみよう」なんて思ったりして、ドキドキワクワクの楽しいゲームだった。
- ・人によって見方や考え方は違うのだと実感した。
- ・答えのないゲームや鑑賞だったので、ずっと話せると思った。
- ・自分の意見をみんなに言って納得してもらえたときは嬉しかった。



色と形と言葉のゲーム パッケージ



言葉のカード

講演会等

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年行っている展覧会と連動した講演会・ギャラリートーク等の多くの実施を取りやめた。

【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	部門	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
瀬戸正人 記憶の地図	上映・アフタートーク	「トオイと正人」	令和3年1月10日(日)・ 11日(月・祝)	小林紀晴(「トオイと正人」監督)×瀬戸正人(出品作家)	256
第13回恵比寿映像祭 映像の気持ち	ラウンジトーク	ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月6日(土)	シシヤマザキ(出品作家)	73
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月6日(土)	渡辺豪(出品作家)	29
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月10日(水)	赤松正行(出品作家)	33
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月11日(木・祝)	大岩オスカル(地域連携プログラム出品作家)、小野リサ(ボサノヴァ歌手)、前田礼(司会/アートフロントギャラリー)	95
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月20日(土)	松本力(出品作家)、VOQ(音楽家)	45
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月20日(土)	カワイオカムラ(出品作家)	34
		ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月11日(木・祝)	オダアマネ(出品作家)、児玉徹郎(出品作家)、山田亜樹(DigiCon6 ASIAディレクター)	60
	上映関連ゲストトーク	上映解説1 感情ゆさぶられる(E-MOTIONAL)アニメーション - DigiCon6 ASIA	令和3年2月9日(火)	土居伸彰(ニューディアー代表、新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバルディレクター)	36
		上映解説2 新千歳空港国際アニメーション映画祭 短編集①-アニメーションの自然 nature を探る	令和3年2月9日(火)	土居伸彰(ニューディアー代表、新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバルディレクター)	36
		上映解説3 カワイオカムラ特集-最新作《ムード・ホール》と短編集2004-2019	令和3年2月20日(土)	カワイオカムラ(川合匠・岡村寛生)	77
	シンポジウム	上映解説4 新千歳空港国際アニメーション映画祭 短編集②-感覚を研ぎ澄ますアニメーション	令和3年2月21日(日)	土居伸彰(ニューディアー代表、新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバルディレクター)	82
		シンポジウムA. [恵比寿映像祭×NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 共同企画] 映像とともにあること-未来へのアカイヴ 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月7日(日)	パネリスト: 近藤健一(森美術館シニア・キュレーター)/畠中実、指塚保子(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC])/岡村恵子、田坂博子(恵比寿映像祭/当館学芸員)	73
		シンポジウムB. [日仏会館共催企画] 映画と人-危機のなかの映画 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月10日(水)	パネリスト: 諏訪敦彦(映画監督、東京藝術大学教授)、クレモン・ロジェ(パリ日本文化会館映画プログラマー) 司会/モデレーター: 澤田直(フランス哲学・文学者、立教大学教授、日仏会館常務理事)、田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター、当館学芸員)	72
	地域発信プロジェクト 「YEBIZO MEETS」	YEBIZO MEETS トーク&ワークショップI アナログ手法とデジタル技術を組み合わせたネオクラフトアニメーションから、新世代のアニメーションを考える 【無観客・オンラインリアルタイム配信】	令和3年2月11日(木・祝)	講師: 伊藤有希(アニメーションディレクター)、見里朝希(映像作家) 司会: 山田亜樹(DigiCon6 ASIAディレクター)	123
YEBIZO MEETS トーク&ワークショップII アートと商業のあいだを行き交い、時代に捉われない独自の表現手法を模索するモーション・アニメーション、主宰者に聞く。アニメーション表現の現在を考える 【無観客・オンラインリアルタイム配信】		令和3年2月12日(金)	講師: 細金卓矢(mimoid.inc: 映像ディレクター/プランナー)、山田遼志(mimoid.inc: アーティスト)、別所梢(mimoid.inc: プロデューサー) 司会: フィルムアート社	140	
YEBIZO MEETS トーク&ワークショップIII CGやARなどのデジタルテクノロジーを駆使し、リアルタイム映像合成によって表現される舞台。その制作過程に迫る。 【無観客・オンラインリアルタイム配信】		令和3年2月18日(木)	講師: タグチヒトシ(GRINDER-MAN)、真壁成尚(ビジュアルデザインスタジオ・WOW)	62	
フェスティバル連携 コラボレーショントーク「それぞれのトランスフォーメーション」- Media Art in TOKYO: エリアを超えて、4つのメディアアートフェスティバルが連携。それぞれの「トランスフォーメーション」を軸に、フェスティバルの今と未来を考える。デジタルによって、何を変容させられるか? 【無観客・オンラインリアルタイム配信】		令和3年2月18日(木)	登壇者: 谷川じゅんじ [Media Ambition Tokyo スペースコンポーザー、JTO Inc.CEO、一般社団法人Media Ambition Tokyo 代表理事] サンソン・シルヴァン(デジタル・ショック フランス大使館 文化担当官/アンスティチュ・フランセ日本 芸術部門 統括マネージャー)/藤谷葉未(未来の学校 東京ミッドタウンマネジメント株式会社/イベントプロデューサー)/久納鏡子(未来の学校 Ars Electronica Futurelab, アーティスト、キー・リサーチャー) 司会: 田坂博子(第13回恵比寿映像祭、当館学芸員)	55	
参加人数合計 1,345人					

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
写真新世紀 2020	グランプリ選出公開審査会、表彰式	令和3年10月30日(土)		60
	レクチャー	令和3年10月31日(日)	野村浩(美術家)、オノデラユキ(写真家)	152
	アーティスト・トーク	令和3年10月22日(金)	2020年度佳作受賞者・優秀賞7名、2019年度グランプリ受賞者	93
参加人数合計 305人				

動画配信

【収蔵展・自主企画展】

在宅で展覧会を楽しんで頂くため、動画配信を積極的に推進した。

展覧会・事業名	内容	講師等	視聴回数*
写真とファッション	展示風景		5,302
あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17	作家インタビュー	岩根愛	1,690
		赤鹿麻耶	1,016
		菱田雄介	730
		原久路&林ナツミ	1,330
		鈴木麻弓	938
	アーティスト・トーク	岩根愛	321
		赤鹿麻耶	516
		菱田雄介(前編)	124
		菱田雄介(後編)	129
		原久路&林ナツミ(前編)	279
原久路&林ナツミ(後編)	201		
鈴木麻弓	249		
エキゾモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク インターネットアートへの再接続	展示風景		1,143
TOPコレクション 琉球弧の写真	展示風景		610
生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市	対談	島山直哉(写真家)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	299
		内藤廣(建築家)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	307
		原直久(写真家)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	722
		飯沢耕太郎(写真評論家)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	1,483
		増田玲(東京国立近代美術館主任研究員)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	63
		太田徹也(グラフィックデザイナー)×森山明子(武蔵野美術大学教授)	27
日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る	展示解説(01~07)	三井圭司(担当学芸員)	20,686
	イングリッシュ・ギャラリーツアー [12/18ライブ配信]	アリス・ゴードンカー氏(ライター、日本写真史研究者)	953
	監修者によるギャラリートーク [1/16ライブ配信]	高橋則英氏(本展監修者・日本大学芸術学部教授)	160
	【東京都写真美術館×日本写真芸術学会 日本初期写真史連続講座】◆横須賀製鉄所と初期写真 [12/25ライブ配信]	菊地勝広(横須賀市自然・人文博物館学芸員)	530
	【東京都写真美術館×日本写真芸術学会 日本初期写真史連続講座】◆幕末明治の東京 [12/27ライブ配信]	井桜直美(古写真研究家、日本カメラ博物館研究員)	468
	【東京都写真美術館×日本写真芸術学会 日本初期写真史連続講座】◆横浜居留地と初期写真 [1/9ライブ配信]	斎藤多喜夫(横浜外国人居留地研究会会長、横浜開港資料館元調査研究員)	291
	【東京都写真美術館×日本写真芸術学会 日本初期写真史連続講座】◆幕末明治の写真技術 [1/10ライブ配信]	高橋則英(本展監修者、日本写真芸術学会会長、日本大学芸術学部教授)	331
	初期写真技法解説「コロディオン湿板方式」	猪俣良文(アトリエ シャテーニュ)	291
	初期写真技法解説「鶏卵紙に手彩色」	三木麻里(写真修復師)	424
	瀬戸正人 記憶の地図	作家インタビュー	瀬戸正人(出品作家)
展示風景			671
白川義員写真展 永遠の日本/天地創造	作家インタビュー	白川義員(出品作家)	3,722
澤田知子 狐の嫁いり	作家インタビュー	澤田知子(出品作家)	2,414
第13回恵比寿映像祭 映像の気持ち(アーカイブ配信)	ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】※1	シヤマザキ(出品作家)	502
	ラウンジトーク 【無観客・オンラインリアルタイム配信】※1	赤松正行(出品作家)、(出品作家)	92
	シンポジウムB. [日仏会館共催企画] 映画と人—危機のなかの映画 【無観客・オンラインリアルタイム配信】※2	パネリスト: 諏訪敦彦(映画監督、東京藝術大学教授)、クレモン・ロジェ(パリ日本文化会館映画プログラマー)、司会/モデレーター: 澤田直(フランス哲学・文学者、立教大学教授、日仏会館常務理事)、田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター、東京都写真美術館学芸員)	180
視聴回数合計 50,091回			

※令和3年3月31日時点での視聴回数

※1 令和3年2月20日~掲載、※2 令和3年3月22日~掲載

東京都写真美術館 教育普及ボランティア

今年度はコロナ禍により例年のような対面での教育普及事業が実施できなかったため、ボランティアにおいても、プログラムの参加者サポート活動は行うことができなかった。今年度の後半においては、このまま各ボランティアが活動の現場から疎遠になってしまうことを避けるために、今後の活動にとって有意義な研修会を活発に開催するようにした。対話型作品鑑賞プログラムで行う「色と形と言葉のゲーム」のファシリテーションを目的とした研修、聾者をはじめとする障害者と社会を考え、実際に即したワークを行うバリアフリー研修を行った。また当館インターンが専門性を生かして、ボランティアに写真についての学びを深めるレクチャーを行った。

研修会の開催形態としては、少人数での対面で実施する場合と比較的大人数でオンラインで実施する二つの方法を用いた。今年度初めて試みたオンラインでの連絡会、研修会を行うことによって、参加者が増えた側面もあり、オンラインによるミーティングを併用することは、今後も有効な手段となってきた。

ボランティアの実働については、年度の後半においては、出前授業でのスクールプログラムへの参加や事前準備といった形で、事業実施の現場に徐々にボランティアを入ってもらえるようにした。

1 登録者数

継続登録者数 68名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数4回

1か月平均 0.33回

のべ活動人数 9人

(ただしボランティア研修会をのぞく)

年間一人あたり 約0.05回

パブリックプログラム活動 0回

スクールプログラム活動 4回

3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 9回(うち自主研修会3回) のべ参加者数 73人(うち自主研修会14人)

令和2年10月24日(土) ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞/オンライン開催) 講師:当館学芸員

令和2年10月25日(日) ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞/オンライン開催) 講師:当館学芸員

令和2年12月19日(土) ボランティア研修会(鑑賞プログラム その1) 講師:当館学芸員

令和2年12月19日(土) ボランティア研修会(鑑賞プログラム その2) 講師:当館学芸員

令和2年12月20日(日) ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)

令和2年12月27日(土) ボランティア研修会(鑑賞プログラム その1) 講師:当館学芸員

令和2年12月27日(土) ボランティア研修会(鑑賞プログラム

その2) 講師:当館学芸員

令和3年3月7日(日) ボランティア研修会(インターン卒業レクチャー「TOP図書室かつよう術～雑誌編～」) 講師:松澤優(インターン)

令和3年3月7日(日) ボランティア研修会(バリアフリー研修「写真美術館の楽しさを伝えるさまざまなコミュニケーションの手法」) 講師:美術と手話プロジェクト 西岡克浩、和田みさ、市川節子

(2) ボランティア連絡会(オンライン開催) 2回 のべ参加者数 58人

令和2年9月19日(土)、令和3年3月14日(日)

博物館実習(学芸員実習)

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設での実習により修得するものとされる。

当館の博物館実習(学芸員実習)は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。

令和2年度は対面形式とオンライン形式を併用し、教育普及プログラム、コレクション展、企画展、図書室業務などの講義・演習を行い、まとめとして課題発表を行った。

受入日程:令和2年8月20日(木)～9月4日(金)のうち10日間

受入人数:7名

受入大学:成城大学、日本大学、女子美術大学、立教大学、東京造形大学、二松學舎大学



収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点収集作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

[作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

写真作品収集の指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点収集作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

令和2年度 東京都写真美術館 作品資料収集方針

1 東京都購入

(1) 購入作家及び点数

19作家153点

(2) 考え方

東京都写真美術館「収集の基本方針」に基づき策定した「令和2年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。

①東京都写真美術館の展覧会で取り上げた作家の写真・映像作品等、東京都写真美術館の美術館活動に資する作品を収集する。

- ・新進作家作品：赤鹿麻耶、岩根愛、原久路&林ナツミ、鈴木麻弓、菱田雄介
- ・国内作家作品：澤田知子
- ・海外作家作品：アドリ・ヴァルリー・ウェンズ、マレイ・クラーク、ポリセクニ・パパペトロウ、バーバラ・モーガン

②写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家であること。

篠山紀信、松江泰治、宮崎学、石内都

③映像作品・資料について、以下を踏まえて収集を図る。

- ・国内外で評価の高い作家・作品であること。
- ・各映像ジャンルの代表的な作品であること。
- ・映像表現および技術等の映像史において重要な役割を果たした作品であること。

岡田裕子、黒川良一、高谷史郎、山城知佳子、エキソニモ

2 東京都写真美術館購入

(1) 購入作家及び点数

5作家27点

(2) 考え方

「令和2年度東京都写真美術館における収蔵品購入に関する方針」に基づき、以下の作品収集を行う。

①写真・映像史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く体系的に収集するとともに、希少的価値のある作品を積極的に収集する。

日下部金兵衛、金丸源三、小豆澤亮一

②写真作品について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・日本を代表する作家であること。
- ・国内外での評価が高い作家であること。
- ・日本における写真の一分野を代表する作家であること。
- ・国内外の主要美術館で作品が収集され、個展が開催されている作家であること。

瀬戸正人

③映像作品・資料について、以下を踏まえて作品の収集を図る。

- ・国内外で評価の高い作家・作品であること。
- ・各映像ジャンルの代表的な作品であること。
- ・映像表現および技術等の映像史において重要な役割を果たした作品であること。

木本圭子

3 寄贈

20作家 203点 展覧会開催及び作品購入に伴う寄贈

令和2年度収集点数：383点

【内訳】国内写真作品：348点 海外写真作品：16点 映像作品資料：19点

東京都写真美術館コレクション点数：36,274点

【内訳】国内写真作品：24,051点 海外写真作品：5,774点 映像作品資料：2,554点 写真資料：3,895点

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ(mm)	点数	制作年	備考
赤鹿 麻耶	〈Did you sleep well?〉	インクジェット・プリント	500×329、1000×665、 1500×1000	16	2015	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
石内 都	〈ひろしま〉	発色現像方式印画	1540×1000、740×1080	2	2007	令和3年度「リバーシブルな未来」 展出品予定作品
岩根 愛	〈KIPUKA〉	発色現像方式印画	600×900	6	2018	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
岡田 裕子	《未来図#2》	発色現像方式印画	1404×900	1	2003	令和3年度以降映像展、恵比寿映 像祭出品予定作品
澤田 知子	〈Reflection〉〈BLOOM〉	発色現像方式印画、インクジェット・ プリント	508×406、30.48×25.4	2	2020、 2017-2020	令和2年度「澤田知子」展出品作品
篠山 紀信	《晴れた日》他	インクジェット・プリント	1500×2250 他	18	1974	令和3年度「篠山紀信」展出品予定 作品
鈴木 麻弓	〈瓦礫の中の宝物〉	発色現像方式印画	254×305	11	2011	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
高谷 史郎	《Topograph / Tokyo 2020 Kokyo Gaien》他	インクジェット・プリント	480×1199	3	2020	令和3年度以降映像展、恵比寿映 像祭出品予定作品
原 久路&林 ナ ツミ	《世界を見つめる》	インクジェット・プリント	1311×875	2	2015-2016	令和3年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
菱田 雄介	〈border korea〉	発色現像方式印画	254×406	12	2009-2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
松江 泰治	《DENMARK 17939》他	発色現像方式印画	700×875	7	2012-2018	令和3年度「松江泰治」展出品予定 作品
宮崎 学	《鷲と鷹》〈フクロウ〉	インクジェット・プリント	510×340	40	1974-1988	令和3年度「宮崎学」展出品予定作 品
山城 知佳子	《黙認のからだ》	ラムダプリント	700×500 (11点)、 840×600	13	2012	令和3年度「山城知佳子」展出品予 定作品
アドリ・ヴァル リー・ウェンズ	〈パニユワング〉	インクジェット・プリント	1050×1550	3	2018	令和3年度「リバーシブルな未来」 展出品予定作品
マレイ・クラ ーク	《ロング・ジャーニー・ホーム 1》他	インクジェット・プリント	800×1200	3	2018	令和3年度「リバーシブルな未来」 展出品予定作品
ポリクセニ・バ パペトロウ	《来訪者》他	インクジェット・プリント	700×1050、1050×1050	2	2012	令和3年度「リバーシブルな未来」 展出品予定作品
バーバラ・モー ガン	《Martha Graham, Letter to the World, Kick》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	442×574	3	1940	令和3年度「光のメディア」展出品 予定作品
岩根 愛	《No Man Ever Steps in the Same River Twice》	マルチチャンネル・ビデオ	カラー、サウンド、 11分24秒	1	2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
エキソニモ	《UN-DEAD-LINK 2020》、《Signature、 2020》	オンライン・インсталレーション		2	2020	令和2年度「エキソニモ」展出品作 品
岡田 裕子	《俺の産んだ子》	2チャンネルビデオ	カラー、サウンド、 17分48秒	1	2002-2019	令和3年度以降映像展、恵比寿映 像祭出品予定作品
黒川 良一	《constrained surface》	オーディオビジュアル・スカルプチャー	HD、サウンド、 8分ループ	1	2015	令和3年度以降映像展、恵比寿映 像祭出品予定作品
菱田 雄介	〈30sec〉	マルチチャンネル・ビデオ	カラー、サウンド、 3分44秒	1	2012-2019	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作家
山城 知佳子	《土の人》、《土の人(劇場版)》、《創造の 発端—アブダクション/子供— 'a piece of Cave 1-16'》	3チャンネルビデオ・インсталレー ション、シングルチャンネルビデオ、 16チャンネル・ビデオ・インсталレー ション	カラー、サウンド、 23分/26分/18分	3	2016、2017、 2015	令和3年度「山城知佳子」展出品予 定作品
合計				153		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ(mm)	点数	制作年	備考
小豆澤 亮一	《(花屋)》	鶏卵紙	257×199	1	1890頃	希少価値の高い初期写真
金丸 源三	《藤原新三像》	アンプロタイプ	120×88×17	1	1871	希少価値の高い初期写真
日下部 金兵衛	《綱渡りをする芸人》《本町通 日下部 金兵衛スタジオ》	鶏卵紙に手彩色	255×199/259×199	2	明治時代中期	希少価値の高い初期写真
瀬戸 正人	〈バンコク・ハノイ〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	361×365	20	1982-1987	令和2年度「瀬戸正人」展出品作品
木本 圭子	《velvet order (柔らかな秩序)》他	シングルチャンネル・ビデオ	白黒/サイレント/8分20秒 他	3	2015	令和2年度「恵比寿映像祭」出品作 品および関連作品
合計				27		

*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

作品収集実績

【寄贈】

作家名	作品名	技法	サイズ(mm)	点数	制作年	備考
相川 勝	〈Landscape〉他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	497.8×883.9×24他	4	2019	平成31年度「日本の新進作家vol.16」 展出品作品
赤鹿 麻耶	〈氷の国をつくる〉	インクジェット・プリント	1500×1000他	17	2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作品
岩根 愛	〈あたらしい川〉	インクジェット・プリント	948×1422他	26	2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作品
澤田 知子	〈glasses〉他	発色現像方式印画	130×90	2	2007	令和2年度「澤田知子」展出品作品
鈴木 麻弓	〈The Restoration Will〉	発色現像方式印画、ゼラチン・シルバ ー・プリント (D.O.P)	413×533他	27	1979-2016	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作品
瀬戸 正人	〈バンコク、ハノイ〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	361×365	5	1982-1987	購入に伴う寄贈
土田 ヒロミ	《芦原の耕作禁止区域水田(福島県相 馬郡飯館村芦原)B》〈フクシマ2011-17 年〉	インクジェット・プリント	1010×1010	1	2011-2017	第一期重点収集作家作品
原 久 路 & 林 ナツミ	〈世界を見つめる〉	インクジェット・プリント	1164×873他	34	2016-2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作品
菱田 雄介	〈border〉	発色現像方式印画、インクジェット・ プリント	668×1000他	32	2007-2020	令和2年度「日本の新進作家vol.17」 展出品作品
宮崎 学	〈鷹と鷹〉〈フクロウ〉	インクジェット・プリント	510×340	14	1974-1981	購入に伴う寄贈
山崎 博	〈櫻花図〉〈CRITICAL LANDSCAPE〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	248×367他	27	2001、1981- 1991	平成6年度総合開館記念展出品作 品 他
山沢 栄子	《イモジュン・カニンガム》 他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		2	1955	平成31年度「山沢栄子 私の現代」 出品作家
アドリ・ヴァル リー・ウェンス	〈バニユワンギ〉	インクジェット・プリント	1050×1550	1	2018	購入に伴う寄贈、令和3年度「リバ ーシブルな未来」展出品作品
オサム・ジェ ームス・ナカガワ /トレイシー・ テンブルトン	〈蝕・浮遊〉	ミクスト・メディア	404×561	1	2019	平成31年度「イメージの洞窟」展出 品作家
シドニー・ケル ナー	《母と子》 他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		2	1946	芸術価値の高い海外写真家作品
ポリクセニ・バ パペトロウ	《宙を舞うトランプ》	インクジェット・プリント	1050×1050	1	2004	購入に伴う寄贈
エキソニモ	《Realm》 他	オンライン・インスタレーション		3	2020	購入に伴う寄贈、令和2年度「エキ ソニモ」出品作品
岡田 裕子	〈エンゲージド・ボディ〉	ミクスト・メディア	立体作品+映像作品	2	2019	購入に伴う寄贈、第11回恵比寿映 像祭出品作品
高谷 史郎	〈Toposcan/Tokyo〉	8チャンネルインスタレーション		1	2020	購入に伴う寄贈、第12回恵比寿映 像祭出品作品
山城 知佳子	《BORDER》	シングルチャンネル・ビデオ	カラー、サウンド、8分30秒	1	2002	購入に伴う寄贈、令和3年度「山城 知佳子」展出品予定作品
合計				203		

令和2年度新収蔵作品の紹介

東京都購入案件



赤鹿麻耶 〈Did you sleep well ?〉より 2015 インクジェット・プリント



石内都 〈ひろしま〉より ひろしま #5 2007 発色現像方式印画



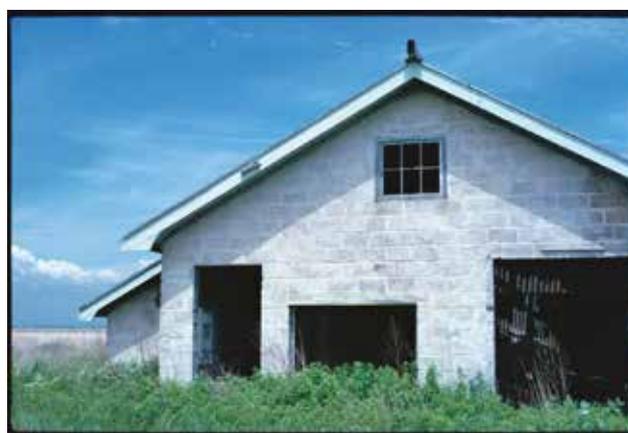
岩根愛 〈KIPUKA〉より 2018 発色現像方式印画



岡田裕子 《未来図#2》 2003 発色現像方式印画



澤田知子 〈Reflection〉より 2020 発色現像方式印画



篠山紀信 〈晴れた日〉より 1974 インクジェット・プリント

平成31年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



鈴木麻弓 〈瓦礫の中の宝物〉より 2011 発色現像方式印画



高谷史郎 《Topograph / Tokyo 2020 Kokyo Gaien》 2020 インクジェット・プリント



原久路&林ナツミ 〈世界を見つめる〉より 2015-2016 インクジェット・プリント



菱田雄介 〈border|korea〉より 2009-2020 発色現像方式印画



松江泰治 《DENMARK 17939》 2012 発色現像方式印画



宮崎学 〈フクロウ〉より 《羽を広げるフクロウ、長野県》 1988 インクジェット・プリント



アドリ・ヴァルリー・ウェンズ 〈パニユワンギ〉より 《カワア・イジェン1(イジェン火山の噴火口、インドネシア)》 2018 インクジェット・プリント



マレイ・クラーク 《ロング・ジャーニー・ホーム2》 2018 インクジェット・プリント



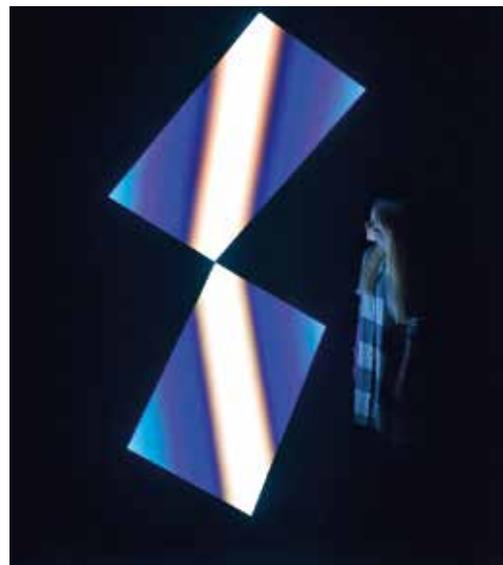
ポリクセニ・ババベトロウ 〈世界のはざままで〉より 《来訪者》 2012 インクジェット・プリント



バーバラ・モーガン 《Martha Graham, Letter to the World, Kick》 1940 ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



エキゾニモ 《UN-DEAD-LINK 2020》 2020 オンライン・インスタレーション



黒川良一 《constrained surface》 2015 オーディオビジュアル・スカルプチャー

令和2年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



山城知佳子 《土の人(劇場版)》 2017 シングルチャンネル・ビデオ

東京都写真美術館購入案件



小豆澤亮一 《(花屋)》 1890頃 鶏卵紙



金丸源三 《藤原新三像》 1871 アンプロタイプ



日下部金兵衛 《本町通 日下部金兵衛スタジオ》 明治時代中期 鶏卵紙に手彩色



瀬戸正人 〈バンコク、ハノイ〉より 《乗り合い船を待つ人々、チャオプラヤー川》 1982-1987 ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)



木本圭子 《Imaginary・Numbers 2006》 2006 シングルチャンネル・ビデオ

【東京都写真美術館図録論文】

石田哲朗

「あしたのひかり」『あしたのひかり 日本の新進作家vol.17』展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.8-17

伊藤貴弘

「写真とファッション」『写真とファッション』展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.93-96

「琉球弧の写真——写真家たちの沖縄」『TOPコレクション 琉球弧の写真』展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.218-226

遠藤みゆき

「あなたとしてのわたし」『澤田知子 狐の嫁いり』展図録、青幻舎、2021年、n.pag.

関次和子

「瀬戸正人『記憶の地図』インタビュー」『瀬戸正人 記憶の地図』展公式カタログ、日本カメラ社、2020年、pp.218-225

田坂博子

「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク [インターネットアートへの再接続]」展公式ガイドブック、東京都写真美術館、2020年、pp.55-61

三井圭司

「日本の初期写真における関東」『日本初期写真史 関東編』展図録、東京都写真美術館、2020年、pp.171-175

【東京都写真美術館紀要No.20】

石田哲朗

「収蔵作家・山田實の人物像について」 pp.12-15

「Artist from the Collection: A Portrait of Yamada Minoru」 pp.18-22

武内厚子、石田哲朗、榎田言葉

「コロナ禍における教育普及事業について」 pp.26-36

山田裕理、三井圭司

「収蔵資料“BALL'S GREAT DAGUERRIAN GALLERY OF THE WEST,”GLEASON'S PICTORIAL DRAWING-ROOM COMPANION. の翻刻と翻訳」 pp.40-52

【寄稿】

伊藤貴弘

「ゼロ地点へ」高橋恭司『ハレルヤ』LIFT、2020年、pp.64-66

「来たるべき10年のために」『美術手帖』2020年6月号、p.212

「閉じ込められた部屋」築山礁太『閉じ込められた部屋』私家版、2020年、n.pag.

「推薦理由」『VOCA展2021』展図録、上野の森美術館、2021年、p.74

遠藤みゆき

「石元泰博 二つの都市」『版画芸術』No.189、阿部出版、2020年、p.95

「メディアの歴史と文化を経験する」HIVEのすゝめ vol.7 (ウェブサイト)、2020年9月10日公開

岡村恵子

“Atoinette De Jong & Robert Knoth, Tree and Soil,” *Foam Magazine #57: In Limbo*, October 1, 2020, pp.33-48

鈴木佳子

「稀代の写真家たちが生んだ、歴史的傑作」『Pen+』（CCCメディアハウス）510号2020年7月29日、pp.94-97

関次和子

「谷口能隆「十間坂」に寄せて」『谷口能隆写真集 Dead End 十間坂〈手宮地区 小樽市〉』、Case Publishing、2020年、pp.84-85

「写真家・水越武 その軌跡と業績」『北海道功労賞 受賞に輝く人々(令和2年度)』、2021年、北海道、pp.89-102

「東京都写真美術館の誕生と写真家」『日本写真家協会70周年記念展図録』、公益社団法人日本写真家協会、pp.188-192

瀬戸正人著『深瀬昌久伝』書評、2021年3月、共同通信社より全国配信

武内厚子

「変化し続ける都市 写し出す」森山大道の東京 ongoing上『東京新聞』8月12日

「時代の違いや特徴 見え隠れ」森山大道の東京 ongoing中『東京新聞』8月13日

「衝撃のアレ・ブレ・ボケ」森山大道の東京 ongoing下『東京新聞』8月14日

「本城直季という迷路」『本城直季(un) real utopia』展図録、朝日新聞社、2020年、pp.252-255

田坂博子

「三原聡一郎《無主物》について」、『日産アートアワード2020』公式カタログ、日産アートアワード企画・運営事務局、2021年、

pp.22-23

「審査委員講評」ほか、『第24回文化庁メディア芸術祭』受賞作品集』、文化庁メディア芸術祭実行委員会、2021年
「〈動いている庭〉はつづく」、『庭師と旅人：「動いている庭」から「第三風景」へ』、あいり出版、2021年、p.113

山口孝子

「2019年写真の進捗、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第83巻3号、一般社団法人日本写真学会、2020年、pp.191-192

多田かおり

『ことばの再発明－鳥取で「つくる」人のためのセルフマネジメント講座－記録集 2020-21』講評ならびにコラム、鳥取大学地域学部佐々木研究室、2021年

山田裕理

「写真集&写真展で振り返る－2020年の総括」『日本カメラ』2020年12月号、pp.115-116
「石元泰博写真展に寄せて③」『高知新聞』2021年2月13日

【学会発表】

山口孝子

白岩洋子、山口孝子「ゲルを利用した写真のクリーニング方法の評価」、一般社団法人文化財保存修復学会第42回大会、第42回大会研究発表集、2020年、pp.152-155.

【講演会・シンポジウム等】

伊藤貴弘

「長島有里枝『SELF-PORTRAITS』刊行記念 長島有里枝×伊藤貴弘 トークイベント」、NADiff a/p/a/r/t、2020年10月3日

関次和子

「水越武 日本アルプスのライチョウ 水越武×関次和子 トークイベント」コミュニケーションギャラリーふげん社、2020年4月4日

武内厚子

「全国美術館会議 教育普及研究部会」第1回会合（オンラインプログラム紹介 事例発表）、オンライン開催、2020年12月15日

田坂博子

「日産アートアワード2020」ファイナリスト三原聡一郎氏とのトークイベント、「日産アートアワード2020」展覧会会場、2020年7月3日撮影（オンライン配信）
「第23回文化庁メディア芸術祭」アート部門受賞者Marian ESSL

（アート部門新人賞『Latent Space』）トークイベント、2020年9月12日（オンライン配信）

第7回新千歳国際アニメーション映画祭トークセッション「「映像」におけるアニメーション、その現在」、2020年11月6日撮影（オンライン配信）

「土地と映像との関わり」の考察」オンライン・レクチャー、横浜国立大学オンラインプログラム『都市と芸術の応答体2020』、2020年11月25日（オンライン配信）

山田裕理

Industry Gathering “International Curators Program×PHOTO 2021 International Festival of Photography”, the Australia Council, March 3, 2021 (online event)

【非常勤講師等】

伊藤貴弘

東京藝術大学美術学部「写真映像論」2020年6月23日、30日、7月7日、武蔵野美術大学芸術文化学科「ミュゼオロジー実習」2020年8月11日

遠藤みゆき

明治学院大学「デジタルアート論2A」春学期
明星大学「博物館概論」「博物館情報・メディア論」秋学期

関次和子

多摩美術大学「芸術学科学芸員課程科目・博物館実習R1」2019年8月31日

武内厚子

跡見学園女子大学「写真論」秋学期

田坂博子

東京藝術大学「写真映像論」2020年5月26日、6月2日
情報科学芸術大学院大学「講義・Archival Archotyping」2020年10月7日

多田かおり

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター「ことばの再発明－鳥取で「つくる」人のためのセルフマネジメント講座－（令和2年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業）」成果発表展講師、2020年9月26日

三井圭司

明治学院大学「現代社会と芸術A、B」春学期・秋学期

山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習I写真技術」春学期・秋学期集中。

独立行政法人東京文化財研究所、令和2年度「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」、2020年10月8日。

【委員・審査員等】

伊藤貴弘

「VOCA展2021」推薦委員、Jury for the BJP International Photography Award 2020

遠藤みゆき

御苗場vol.26レビュアー

岡村恵子

愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像部会委員、「アーカスプロジェクトアーティスト・イン・レジデンスプログラム キュレーター面談」アドバイザー

関次和子

高知県立美術館運営委員会委員、第56回神奈川県美術展委員、神奈川県美術展審査員(写真部門)、目黒観光写真コンクール審査員、Jury for the 9th Prix Pictet 2021

武内厚子

「第54回 かわさき市美術展」写真部門審査員

田坂博子

7th Taiwan International Video Art Exhibition [第7回台湾国際ビデオアート展] (2020 TIVA) 審査委員、「日産アートアワード2020」候補者推薦委員、第24回文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員、「第7回新千歳国際アニメーション映画祭」コンペティション短編部門国際審査委員

山口孝子

日本写真学会幹事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、国立民族学博物館共同研究員

【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年度からインターン制度を導入している。令和2年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、展覧会事業補助、作品管理業務補助等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

松澤優

担当業務：スクールプログラム、パブリックプログラム、ボランティア業務補助(教育普及事業)、「森山大道の東京 ongoing」展、「あしたのひかり 日本新進作家 vol.17」展(展覧会事業補助)

指導学芸員：武内厚子

期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

日南日和

担当業務：「森山大道の東京 ongoing」展、「あしたのひかり 日本新進作家 vol.17」展、「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」展、「澤田知子 狐の嫁いり」展(展覧会事業補助)、作品資料・収蔵整理(作品管理事業補助)、パブリックプログラム(教育普及事業運営補助)

指導学芸員：遠藤みゆき

期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

調査研究・普及活動 (アーカイブ研究会)

映像音響資料の保存管理および各種アーカイブ構築の技術と実践に係る専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等との研究および情報交流の機会として、アーカイブ研究会を、平成29年度より毎年定期的を実施している。4年目となる今回は、フィルム作品のデジタル化とアーカイブについて講演とディスカッションをオンラインで行った。

第4回アーカイブ研究講習会(オンライン開催)

「フィルム作品のデジタル化とアーカイブ」

講師：鈴木伸和(視聴覚アーキビスト)

視聴回数：123回

調査研究・普及活動 (プリントスタディールーム)

東京都写真美術館では、研究のために直接作品等を閲覧する特別閲覧(プリントスタディールーム)制度を設けている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた令和2年度はお客様に安心して美術鑑賞をお楽しみいただけるよう、展覧会、上映、図書室等の活動を紹介するとともに、さまざまなメディアを使って当館の事業と施設の安全面を幅広くアピールした。特に、動画コンテンツをはじめSNSメディアの利用など、当館に来館することが難しい人にリーチするための広報を積極的に実施した。

1 広報誌発行

a. 「東京都写真美術館ニュースeyes (アイズ)」 (vol.102~vol.104)

季刊、発行部数：各号30,000部

<巻頭記事・メインテーマ>

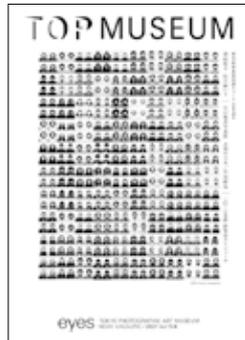
102号「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク
インターネットアートへの再接続」

103号「瀬戸正人 記憶の地図」

104号「澤田知子 狐の嫁いり」、2021年度ラインナップ発表



「eyes」vol.103、vol.104



b. 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」 vol.112~vol.123

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画『クレムリン』（カレー沢薫、講談社）とコラボレーションした「nya-eyes」（ニアイズ）を発行した。



「ニアイズ」vol.122、vol.123



2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会についてプレスリリースを制作し、展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に配布した（約700件）。同時に美術館を中心に、A4チラシとB3ポスターの配布をおこなった（約330件）。チラシ・ポスターは館内および財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」関係施設にも配布した。

3 プレス対応

令和2年度は、展覧会、教育普及事業などに加えて、オンラインコンテンツに関する取材依頼に対応した。プレスには、バラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家や担当学芸員へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するため柔軟に対応した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、プレス内覧会の開催形式を変更し、安全面に配慮しながら展覧会および次年度の展覧会ラインナップを発表した。また、広報東京都、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigation、Tokyo Tokyo Festivalなど、東京都、財団への情報提供も行った。

a. プレス内覧

展覧会名（開催日、媒体数、参加人数）

「TOPコレクション 琉球弧の写真」、「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」（令和2年9月29日、41媒体、49名）

「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」、「瀬戸正人記憶の地図」（令和2年11月30日、31媒体、40名）

※上記以外の展覧会に関するプレス内覧は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を休止した。



「TOPコレクション 琉球弧の写真」展 プレス説明会より



「生誕100年 石元泰博写真展」プレス内覧より



「瀬戸正人 記憶の地図」展 プレス説明会より

b. 展覧会広報記録

展覧会名 (テレビ・ラジオ、新聞、雑誌)

「写真とファッション 90年代以降の関係性を探る」(1件、62件、60件)

「森山大道の東京 ongoing」(3件、109件、88件)

「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」(1件、52件、29件)

「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」(2件、40件、58件)

「TOPコレクション 琉球弧の写真」(0件、57件、26件)

「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」(1件、72件、46件)

「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」(2件、38件、36件)

「瀬戸正人 記憶の地図」(1件、54件、28件)

「第13回恵比寿映像祭 映像の気持ち」(2件、36件、25件)

「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」(1件、48件、30件)

「澤田知子 狐の嫁いり」(3件、21件、28件)



「森山大道の東京 ongoing」展より NHK 日曜美術館アートシーン撮影風景 (令和2年6月28日放映)



掲載記事「エキソニモ」朝日新聞 (令和2年9月8日掲載)

c. 教育普及プログラム取材

公益財団法人東京都歴史文化財団「青コレ!」(6月26日公開)

ニッポン放送「チャリティ・ラジオ ミュージックソン」(12月24日放送)

内田洋行教育総合研究所「学びの場.com」(1月4日公開)

NHK Eテレ『高校講座 美術I』(令和3年4月29日放送予定)

4 ホームページの運営

公式ホームページでは、関連動画のコンテンツアップを積極的に行い、作家の人となりや、制作風景などを紹介した。さらに、ツイッターなどSNSからアクセスした新しいユーザーに応えるた

めに、展覧会を多角的に紹介し、展覧会への来館促進とともに、当館展覧会の開催意義を広く伝える発信に努めた。2020年4月～2021年3月末までのページビュー総数2,912,787PV(最高は2019年8月の606,251PV)で前年比54.5%であった。

a. 「写真とファッション 90年代以降の関係性を探る」

臨時休館中から展示風景を動画紹介した。(再生回数: 5,291回)

b. 「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」

5組の作家による展覧会PR動画と、各作家と担当学芸員によるオンライン・トーク動画を(全7本)を公開し、作家への関心を醸成した。(合計再生回数: 7,729回)

c. 「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」

会期中176,851ユーザーがホームページを閲覧したほか、会期終了後も同展の「インターネット会場アーカイブ版」を展開した。

d. 「TOPコレクション 琉球弧の写真」

展覧会会場の風景動画を公開した。(再生回数: 604回)

e. 「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」

展覧会関連事業の「生誕100年 石元泰博写真展」共催3館(当館)動画企画をYouTubeとホームページで展開した。コンテンツは当館を含む本展で制作を行った。

f. 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

昨年度撮影を行った「展覧会担当学芸員によるギャラリートーク動画」(全7本)のほか、新会期で開催した展覧会関連事業の動画配信コンテンツのアーカイブを掲出した。

「展覧会担当学芸員によるギャラリートーク(全7本)」(合計再生回数: 20,686回)

「オンライン・イングリッシュ・ギャラリートーク」(再生回数: 953回)

「東京都写真美術館×日本写真芸術学会 日本初期写真史連続講座(全4回)」(合計再生回数: 1,620回)

「監修者によるギャラリートーク・オンライン」(再生回数: 160回)

「初期写真技法解説(全2回)」(再生回数: 715回)

g. 「瀬戸正人 記憶の地図」

展示風景の動画および出品作家が展覧会の見どころ紹介する動画を公開した。展示風景(合計再生回数: 661回)、作家インタビュー(合計再生回数: 861回)

h. 「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」

作家インタビューを動画で公開した。(合計再生回数: 3,722回)

i. 「澤田知子 狐の嫁いり」

作家インタビューを動画で公開した。(合計再生回数：2,414回)



「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」オンライン・イングリッシュ・ギャラリートーク動画



「澤田知子 狐の嫁いり」インタビュー動画

5 SNSを活かした広報

公式ツイッターおよびインスタグラムを使い、展覧会開催、イベントおよびワークショップ参加者募集などを告知し、公式ホームページ内への誘導を図った。さらにSNSの機能を利用した広報を実施した。各展覧会のSNS発信事例は下記のとおり。

a. 「写真とファッション 90年代以降の関係性を探る」

4月から6月までの臨時休館中もツイッターおよびインスタグラムで展示風景の動画のPRなど発信を続け、展覧会への期待感を醸成した。(15件)

b. 「森山大道の東京 ongoing」

本展の見どころと作家の魅力を伝えるため、学芸員による作品紹介と作家の名言を紹介するツイッターシリーズ等の発信を行った。(50件)

c. 「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」

5組の出品作家それぞれの作品の見どころをバランスよく紹介した。(20件)

また、各作家自身による展覧会告知も当館のアカウントで積極的に紹介し、来館促進を図った。

d. 「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」

インターネット会場の更新情報や、作品解説、展覧会掲載情報を発信した。(17件)

e. 「TOPコレクション 琉球弧の写真」

出品作家の紹介、主な作品の見どころを紹介した。(10件)

f. 「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」

同時開催展情報や、「石元泰博のことは」と題した作家の名

言を引用したシリーズ等を紹介した。(18件)

g. 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

年末年始企画として関東地方にまつわる歴史情報や、初期写真クイズ、動画配信・オンラインイベント情報等を紹介した。(36件)

h. 「瀬戸正人 記憶の地図」

作家からのメッセージや、出品作品の核となる、各時代の代表作などを紹介した。(19件)

i. 「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」

展示替え情報や展覧会紹介記事等を紹介するほか、関連図書情報を発信した。(5件)

j. 「澤田知子 狐の嫁いり」

作家インタビュー動画のほか、ミュージアム・ショップと連動して関連グッズの販促を強化した。(6件)

6 広告出稿（年間契約、有料・無料）

年間を通じて、さまざまな媒体に展覧会告知と館広報のための広告を出稿した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて、タイムリーな発信力が高いSNS広告への出稿を主に広告展開を行った。

a. 「森山大道の東京 ongoing」

- ・『東京新聞』朝刊、都内版、テレビ欄下、全3段カラー、約50万部（6月2日、8月9日）
- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、18歳以上（8月28日～9月7日）表示回数：98,262回
- ・フェイスブック ターゲティング広告、1都3県、18歳以上（8月28日～9月7日）表示回数：581,070回
- ・京王線・京王新線、新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（8月24日～9月22日）

b. 「あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17」

- ・『東京新聞』朝刊、都内版、テレビ欄下、全3段カラー、約50万部（7月26日、8月23日）
- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、18歳以上（8月28日～9月7日）表示回数：516,474回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、全年齢（8月28日～9月6日）表示回数：451,816回

c. 「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」

- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、18歳以上（9月18日～28日）表示回数：226,376回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、全年齢（9月18日～10月8日）表示回数：1,050,005回
- ・京王線・京王新線 新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（8月24日～9月22日）

d. 「TOPコレクション 琉球弧の写真」

- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（11月11日～22日）表示回数：359,193回
- ・インスタグラム（「琉球弧+石元泰博」展）ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（11月11日～22日）表示回数：26,203回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（9月18日～10月8日）表示回数：398,954回
- ・「ウェブ版美術手帖」ヘッダーバナー広告（11月3日～10日）
- ・京王線・京王新線 新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（8月24日～9月22日）

e. 「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」

- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（11月12日～22日）表示回数：26,203回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（9月18日～10月8日）表示回数：867,348回
- ・ツイッター（「石元泰博+琉球弧」展）ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（11月12日～22日）表示回数：26,203回
- ・京王線・京王新線 新宿・渋谷駅ほか「クアトロボード」（10月26日～11月1日）

f. 「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」

- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（12月18日～1月7日）表示回数：755,767回

g. 「瀬戸正人 記憶の地図」

- ・『朝日新聞』夕刊、東京本社版約100万部 火曜アート面（美術館情報欄下）半5段純広告 モノクロ（12月8日）
- ・『日本経済新聞』夕刊、東京本社版 第1木曜「マンスリーミュージアムガイド」下7段1/5純広告 モノクロ（12月3日）約80万部

h 「白川義員写真展 永遠の日本／天地創造」

- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（3月25日～31日）表示回数：194,204回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（3月25日～31日）表示回数：728,867回
- ・フェイスブック ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（3月25日～31日）表示回数：710,587回

i 「澤田知子 狐の嫁いり」

- ・インスタグラム ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（3月25日～31日）表示回数：111,806回
- ・ツイッター ターゲティング広告、1都3県、20歳以上（3月25日～31日）表示回数：340,901回
- ・フェイスブック ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（3月25日～31日）表示回数：244,346回



「あしたのひかり 日本の新進作家vol.17」『東京新聞』朝刊（7月26日、8月23日）



「エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」ツイッター広告（9月18日～10月8日）

j. 館広報

- ・ユーチューブ ターゲティング広告、1都3県、16歳以上（3月25日～31日）表示回数：143,258回
- ・ヤフージャパン ブランドパネル・YDNバナー・インフィード広告、1都3県、20歳以上（3月25日～31日）

7 インバウンド広報

多言語パンフレット

東京都写真美術館を英語、韓国語、中国語（簡体字）の3言語で紹介したパンフレットを作成・配架した。

発行部数：英語 5,000部、韓国語 2,500部、中国語（簡体字）2,500部



多言語パンフレット

8 屋外掲出（年間契約、有料）

a. 恵比寿ガーデンプレイス周辺広告

- ・スカイウォーク電飾看板
- ・ポスター掲示

b. 東京都写真美術館ディスプレイシート

- ・東京都写真美術館 外壁 巨大写真
- ・懸垂幕

c. 恵比寿ガーデンプレイス内三連ショーウィンドウ

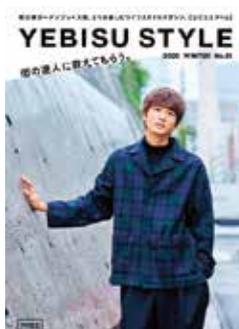
にあたり、撮影協力を行った。



スカイウォーク電飾看板



JR恵比寿駅東口ポスター掲示



『YEBISU STYLE』No. 61



デジタルサイネージ紹介例



懸垂幕



巨大写真



恵比寿ガーデンプレイス内三連ショーウィンドウ

12 地域との広報連携

恵比寿ガーデンプレイス (YGP) との広報展開

- ・オフィスワーカー割引
YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗でのサービス提供を行った。
- ・『YEBISU STYLE』 vol. 60-61
恵比寿地域情報誌『YEBISU STYLE』内のコーナー「TOP ニュース!」に展覧会情報を提供した。
- ・デジタルサイネージ
恵比寿ガーデンプレイス内施設情報紹介コンテンツの制作